

令和2年度 東京都立練馬工業高等学校経営報告

校長 守屋 文俊

1 目指す学校

ものづくりを柱とする多様なプログラムを通して「学び直し」と「進路実現」ができる学校

工業科エンカレッジスクールとして、二人担任制、朝学習や30分授業、幅広い体験活動などの特色を生かしながら、生徒の意欲を高め、可能性を引き出し、希望の進路への実現ができる学校づくりを進める。

- (1) 学習への興味・関心を高め、社会生活に必要な基礎学力を確実に身に付ける。
生徒の可能性を最大限に引き出す授業内容や方法によるきめ細かな指導を行い、全ての生徒に高校以前の学習内容を含め、社会的・職業的自立に必要な基礎的な学力を確実に身に付ける。
- (2) 健全な職業観、勤労観を育み、社会的自立に必要な力を身に付けた生徒を育てる。
3年間を見通した計画的なキャリア教育を行い、進路実現に向け、自ら進んで取り組める力や、コミュニケーション能力、社会的自立に必要な力を確実に身に付ける。
- (3) ものづくりの楽しさ、面白さを学び、専門的な知識・技術・技能を身に付ける。
生徒のものづくりへの興味・関心を高める指導を行い、個々の適性や進路先を見極めるとともに、専門知識や技能習得の基盤となる工業の基本的な知識・技術力を確実に身に付けるとともに、問題点や課題を発見し、解決方法を模索する力を養う。
- (4) 社会生活に必要なルールやマナー、社会人としての基礎・基本を身に付ける。
保護者と連携し、基本的な生活習慣の定着を図り、安全指導、問題行動防止、生命の尊さ、いじめ防止に向けた指導を徹底し、社会人としての必要な礼儀やマナー、規律や態度、健康的な生活習慣を身に付ける。
- (5) 生徒の個性や人権が尊重され、行事や部活動が活発に行われる、元気で活気のある学校
生徒の個性の伸長を図るとともに、自他の基本的人権を尊重する精神を培い、互いに尊重しあい、適切にコミュニケーションがとれる力を身に付け、よりよい生活や健全な人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育成する。
- (6) 地域に根ざし、信頼され、必要とされる、開かれている学校
「地域に根ざした練馬工業高校づくり」を進め、社会貢献の意義を考えさせ、道德教育の充実を図る。地域に信頼される学校を目指す。

2 中期的目標と方策

- (1) 〔学習指導〕学校の教育活動全体を通して、ルーブリックにより教科横断的に育成すべき資質・能力への評価基準を示し、朝学習、30分授業、習熟度別授業、少人数授業により、きめ細かなわかる授業を展開し、生徒の学習状況を見極めるとともに、生徒の学習を促し、学習習慣を定着させ、確実に基礎学力の定着・向上を図る。
 - ①学び直しや進路実現のための学習に対応した授業改善
 - ②エンカレッジスクールとしての到達度目標に向けた学習評価方法の改善
 - ③各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教科横断的な視点で、中期的目標を実現するため、昨年度に引き続き「カリキュラム・マネジメント」を実施
 - ④資格取得、検定試験合格、コンテストの参加など生徒に具体的な目標を示すことで、成果を実感できる指導の工夫
 - ⑤生徒自らが問題点や課題を発見し、解決方法を模索するなど、授業に探求等を取り入れる「課題解決型学習（PBL：Project Based Learning）の研修の実施

- ⑥毎時間の授業を大切にすゝる取組み姿勢の定着と年間授業時数の確保
 - ⑦特に義務教育段階の学び直しが必要な生徒に対して、放課後を活用した個に応じた学習支援（校内寺子屋）を実施
 - ⑧スマートフォン、タブレット、PCなどを使用した「学習支援クラウドサービス」の利用による「授業・学習コンテンツ」等の活用
- (2) 〔進路指導〕 3年間を見通したキャリア教育を充実させ、進路実現に向け、健全な職業観・勤労観を育み、社会人・職業人として必要な力を身に付ける。
- ①キャリア教育の視点に立ち、高校3年間を見通した進路指導計画の編成・実施・改善
 - ②健全な職業観・勤労観の育成につながるインターンシップなどの体験的活動の一層の充実
 - ③体験活動や個別指導の充実による進路意識の高揚と進路希望の実現
 - ④企業・上級学校との連携による体験の拡充、企業からの求人数増加や大学等の推薦枠の拡大への取組
- (3) 〔生活指導〕 生徒との対話や心の交流を中心として、決して体罰によることなく、よき社会人となるために必要な基本的な生活習慣、規範意識、公共心を育成する。
- ①自立支援チームと連携し、全教職員が一体となって健全育成に当たる生活指導体制・教育相談体制の確立
 - ②家庭と連携した望ましい生活習慣の確立、社会性や規範意識、公共心を育む規律指導の徹底
 - ③地域の関係諸機関と連携した生命、安全、人権等にかかわる指導の充実
- (4) 〔特別活動〕 学校行事、生徒会活動、部活動等を通して、生徒の地域貢献・社会貢献活動をより活発化し、生徒に自信を付けさせるとともに、自己表現力やコミュニケーション能力を高める。
- ①生徒一人一人に役割を持たせ、集団への帰属意識を高める指導の徹底
 - ②部活動への全員加入を目指した取組みと活動実績の向上
 - ③地域貢献等のボランティア活動や日々の清掃活動などによる奉仕の精神、美化意識の醸成
 - ④地域の関係諸機関と連携した防災訓練を通して、地域で生かせる防災教育の充実
 - ⑤国際理解教育を推進して、グローバル社会においても活躍できる人材の育成
 - ⑥オリンピック・パラリンピック教育を通じて、国際理解を深め、様々な国の人々との交流からグローバル感覚を身に付けるとともに、ボランティアマインドの向上や、障害者理解の深化
- (5) 〔健康づくり〕 心身共に健康な体づくりや体力向上に向けて主体的な取組みができる力を育成する。
- ①心身共に健康な体づくりや体力向上に向けた、授業改善、体験活動、学校行事の工夫
 - ②学校保健計画の組織的な実施
 - ③全ての教員が、教育活動全体を通じて、生命を尊重する心の育成を実施
 - ④適応指導や教育相談にかかわる校内研修および活動のさらなる充実
- (6) 〔募集・広報活動〕 学校の広報活動を更に活性化させ、都民の本校に対する理解を高め、中学生・保護者に選ばれる魅力ある学校づくりに努める。
- ①推薦、分割前期、分割後期募集における入学者選抜方法の工夫
 - ②広報・PR組織の強化、学校ホームページ、ツイッターの随時更新、PR動画の制作、学校説明会、体験入学、体験入部等の広報活動の改善、充実
 - ③中学校教員や塾の講師などを対象とした広報活動の推進
 - ④学校開放事業や公開講座、出前授業、わくわくドキドキ夏休み工作スタジオの改善、充実
 - ⑤一般社団法人と連携した、さんだる相談会等を実施した広報活動の強化
- (7) 〔学校経営・組織体制〕 学校経営計画を実現する学校運営体制の工夫、改善を行う。
- ①工業科エンカレッジスクールを推進する自立支援チームの有効活用を図る校内体制の強化
 - ②生徒理解や授業改善、服務事故根絶等にかかわる校内研修の充実
 - ③企画調整会議の充実と経営参画型の経営企画室の体制づくりの充実
 - ④働き方改革プランを推進させ、仕事の割り振りと効率を図った、ライフ・ワーク・バランスの実現

3 令和2年度の取組みと自己評価

(1) 教育活動への取組みと自己評価

① 学習指導

- アー1 コロナウイルス感染症対策として行った、自宅学習期間及び分散登校期間において、全教員でオンライン授業に取り組み、900本の動画を作成し自宅学習用の時間割に沿って展開した。
- ー2 全校を挙げて取組んだ授業規律の徹底については、授業担当者による指導の差が見られる。今後も、全教員で改善すべき課題として継続して取組んでいく。
- ー3 授業中の巡回指導を実施した結果、授業の中抜けは見られなかったが、一部の生徒に欠時や授業遅刻を重ねる傾向がある。あらゆる機会を通して授業の大切さを理解させる取組みを継続していく。
- イー1 ICT機器を活用した「わかる授業」を工夫し、実践する教科が増え、全体的に広がりを見せている。しかし、全ての教室でICT機器を活用した授業が可能であるが、教室により使用頻度が違っている。活用に向けた校内研修や研究授業などを通じて、教員のより一層のスキルアップを図っていく必要がある。
- ー2 特別支援教育の視点を考慮し、情報の共有化を図り、指導法の工夫やユニバーサルデザインの考え方に基づく授業に関して、校内研修を更に充実させるとともに、教育環境においても、もう一度見直しを行い、充実を図る必要がある。
- ー3 授業力向上を図る取組みの一つとして、年次研修を活用した公開研究授業・研究協議等を26回実施した。生徒の学力をよりの確に把握する方策として、業者作成の「基礎学力診断テスト」や「学期末確認テスト」を活用し、生徒の学習到達度の測定を行った。「主体的、対話的で深い学び」について、ALの手法を取り入れた授業改善への取組について、各個人で研究を積み重ねてきている。しかし、全体的な校内研修までは実施できなかった。
- ー4 外部の力を活用した研修を計画的に行うことができなかったため、来年度計画を立て、確実に実施する。
- ー5 夏季休業日中の補講・講習は3講座実施し、延べ5日間にわたり、96名の生徒が参加した。また、放課後の補講・講習と合わせ、学習の遅れの回復、発展的学習、資格取得・検定合格を目指した、きめ細かな指導を行い生徒の学習意欲を喚起することができた。中でも、前期試験が中止にも関わらず、第2種電気工事の資格取得者が13名の合格者を出すことができた。
- ー6 昨年度より、学力向上研究校に指定され、校内寺子屋事業として、放課後に外部人材を活用し、国語と数学、英語において、特に義務教育段階の学び直しの必要な生徒42名に対し31時間の補講を行うことで、基礎学力を向上させることができた。

② 進路指導

- アー1 1年生では、「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム」により、プログラムを2回実施し、望ましい職業観を身に付けさせる指導を行った。2年生では、全員が体験するインターンシップを核にした指導を進め、東京商工会議所練馬支部、東京都中小企業家同友会、東京都中小企業振興公社との連携および協力により、191社の受入れ承諾を確保し、68社でインターンシップを実施した。また、夏季休業日中における技能習得型インターンシップはコロナウイルス感染症により中止とした。今年度は、協力企業や保護者をよばず、1年生向けのインターンシップ報告会とした。協力企業へは報告書を作成し、配布させていただいた。
- イー1 3年生就職希望者の一次内定率は82.2%で、ここ数年の合格率は同じである。インターンシップによる動機づけや講演会と、夏季休業中の面接指導の効果はあるため、継続していきたい。職場見学後に実施した面接・履歴書指導では、ねりま若者ステーション、ハローワーク池袋、スクールソーシャルワーカーなど、学校外の方々による的確なアドバイスと緊張感が、生徒により具体的な就職活動に向き合うことができた。大学・専門学校等への進学者を含めた全体の進路決定率は、96.2%である。

③ 生活指導

ア－1 教育相談担当職員を中心にスクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカーとの一層の連携し教育相談活動の充実を図り、スクールカウンセラーの相談件数は277件、ユースソーシャルワーカーの相談件数は93件であった。生徒個々の課題や保護者からの相談にも対応を行い、教育相談活動は充実していた。

イ－1 基本的な生活習慣の確立に向けて、朝の立ち番など組織的・計画的に指導を行った結果、少しずつではあるが、生徒は来校者への挨拶ができるようになった。遅刻者指導においては、特定の生徒が遅刻をしており、大きな改善はできなかった。教室内の清掃状況については、コロナウイルス感染症の対応としてごみ箱を撤去し、ごみは持ち帰ることとした。全校をあげた清掃美化活動への取組みを強化することが引き続き課題である。

－2 特別指導件数は19件と前年度より減少しているが、延べ人数としては増加している。問題行動のきっかけとなる事案として、「SNSの利用マナー」、「友人関係の希薄さ」であり、特にSNSによるトラブルによる特別指導が多い。あらゆる機会を通して互いを尊重しあう態度を培い、いじめや暴力など学習環境を乱す行為については厳しい姿勢で臨み、小さなことでも全教員で指導に当たる体制をさらに強化する必要がある。

④ 特別活動

ア－1 体育祭及び文化祭はコロナウイルス感染症の影響により中止とした。

－2 生徒会役員を中心となり、練馬ピーポーズなどの活動を通じて、地域安全活動が認められ、警視庁生活安全課長、東京防犯協会連合会から連名で、感謝状が授与された。

地域行事である練馬区第二地区委員会の祭りや介護福祉施設における石焼き芋の提供なども、コロナウイルス感染症により中止となってしまった。また、東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会は書面による開催となり、課題研究の取り組みとして、『パラリンピック公式種目「ボッチャ」競技用具の研究』、『LEDを使用したゲームの製作』を発表し、工業研究奨励賞を受賞することができた。今後も、個々の生徒が主体的に行動できるよう指導を継続していく。

⑤ 学習環境整備と健康づくり

ア－1 コロナウイルス感染症対策として、毎朝健康観察を行うとともに、校舎に入る前にサーモグラフィで体温確認を行った。窓の換気方法や湿度の管理など感染症の予防対策を行うとともに、教室等の消毒、アルコールを含んだ消毒液の設置することにより、コロナウイルス感染症対策を行い、感染者を最小限に抑えることができた。

－2 三者面談や遅刻指導、特別指導などの機会を通して家庭との連携を強化し、生徒の望ましい生活習慣・生活リズムの育成を図った。

⑥ 募集・広報活動

ア－1 夏季休業日中の学校見学会を14回、本校での学校説明会を70回、個別相談会を1回、体験入学を2回、中学校の教員を対象とした説明会を1回実施した。中学生やその保護者、教員に対し、工業科エンカレッジスクールとしての本校の特色について理解を深めていただくことに努めた。また、中学校訪問については、コロナウイルス感染症対策もあり中止した。「夏休み工作スタジオ」を開催し、小中学生に本校「キャリア技術科」における教育活動の一端を紹介することができた。

－2 ホームページの迅速な更新を心がけた結果、更新回数は382回を超えた。

－3 子どもの成長と環境を考える会に協力していただき、動画を3本作成し、ホームページに掲載した。本校の広報委員会でも動画を作成し本校の特色について理解を深めた。

－3 入学者選抜では、平均応募倍率は1.19倍（推薦1.70倍、前期1.01倍、後期0.11倍）であった。後期募集において定員に満たないため、三次募集を行った。

⑦ 学校経営・組織体制

アー１ 自律経営推進予算編成については、１０％シーリングを実施し実効性のある予算編成を目指した。予算執行については、適正な執行状況を維持するとともに、センター執行率５８．９％を達成したが、昨年度より執行率を減少させてしまった。

イー１ 体罰の禁止や生徒の個人情報の適正な管理など、サービスの厳正について、教員のさらなる意識向上を図った。授業や教育相談、サービスに関する研修は計画通り実施し、工業科エンカレッジスクールの教員として必要とされる資質・能力の向上に努めた。

ウー１ 個人情報の保護、体罰防止については、定期的に注意喚起を実施した。

エー１ 働き方改革プランを推進する上で、長時間労働による健康障害防止のため、８０時間を超える教員の産業医による面接指導を２２名（前年度５８名）実施した。

⑧ その他

アー１ 中学校の技術の教科書や数学の教科書の内容を分析し、入学選抜方法の工夫・改善につなげた。

イー１ 生徒の安全と教育の質を確保するために万全の対策を立てた。

ウー１ わくわくどきどき夏休み工作スタジオの開催により、ものづくり教育の一層の推進を図った。

エー１ 図書館便りを通じて、新着本等図書館からの情報発信を行い、読書活動を推進した。

(2) 重点目標と数値目標への取組みと成果 * [] は令和元年度実績

① 工業科エンカレッジスクールの特色ある教育活動を通して生徒の学校生活を支援し、中途退学者数を減らす。

・中途転退学者数 １年： ２２人 [２２人] 、 ２年： ７人 [９人]
３年： １人 [７人] 、 全体： ３０人 [３８人]

② キャリア教育の一層の充実を図り、自己の適性を見出させ、進路希望の実現を図る。

・生徒一人当たりの年間資格取得数 平均１．１５ [平均０．８８]
・就職一次内定率 ８２．２％ [８２．９％]
・就職最終決定者率 ９３．１％ [１００％]
・卒業時の進路未定者率 ６．９％ [５．０％]

③ 全教員が一体となった組織的な取組みにより、基本的な生活習慣の定着と規範意識の徹底を図る。

・１年間の皆勤・精勤者 全体の２２．１％ [１４．８％]
・特別指導件数 １９件 [１９件]

④ 部活動の一層の活性化を進め、部活動加入者の増加を図る。

・年度末の部活動加入率 ４６．７％ [７４．９％]

⑤ 校内研修により教育相談の一層の充実を図る

・教育相談に関する校内研修 ４回 [１５回]
・延べ参加人数 ８０人 [２４０人]

⑥ 学校PR活動の一層の充実を図り、より本校に適する生徒の入学を目指す。

・学校説明会の参加人数（保護者と中学生の合計）４００人 [１３５３人]
・推薦、前期、後期の平均応募倍率 １．１９倍 [１．２８倍]

⑦ 全都に公開する研究授業・研究協議を積極的に実施し、教員の授業力向上を図る。

・相互の授業観察に加え全都に公開する研究授業・研究協議の実施回数 ２６回 [２１回]

⑧ 読書月間の活性化などを通して読書活動を推進する

・図書貸出数 ９８０冊 [１３７３冊]
・年間延べ利用者数 ３８３９人 [６１６１人]

2. 令和2年度以降の課題

本校は工業科エンカレッジスクールとして特色ある教育活動を通じ生徒の学校生活を支援し、年度末まであきらめない指導を行ってきたが、中途退学者数は昨年度より増加の数値となった。これは、入試倍率の低下の影響と考えられる。また、特別指導件数は昨年度と同数であるが、延べ人数の増加については、前年度に比べ約2割増加となってしまった。

来年度以降の本校の課題は、引き続き入学者選抜の応募者数増加のための方策を検討していく必要がある。令和2年度入学選抜の応募倍率は、推薦選抜1.70倍、分割前期1.01倍、分割後期0.11倍という結果であった。学校説明会は、新型コロナウイルス感染症対策として、三密を避けるため、人数制限を行った上で、予約制としたため、昨年度の3割程度の出席者であった。出席できない中学生、保護者に対しては、ホームページに紹介動画を掲載した。中学校訪問は、新型コロナウイルス感染症を鑑みて中止とした。

インターンシップは、夏季休業中に行われる技能習得型の10日間は中止とし、4日間の2学年全員参加型は実施した。1学年は、「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム」により、プログラムを2回実施するなど、キャリア教育を行うとともに、ケース会議などにより教員間で生徒情報の共有を図り、生徒一人一人に即した指導の検討を行い実施するなど、組織的に指導できる体制づくりについて引き続き研究を行っていく。

次期学習指導要領への準備のため、カリキュラム・マネジメントを継続して行った。現在の教育課程の見直しを図り、教科を横断的にとらえ、20年後の生徒の将来像から、必要となる資質・能力を育成するための教育課程の編成を構築していく。系列については6系列から5系列に変更するため、教育庁に申請した。

今年度は、コロナ禍において、本校でできるオンライン授業をどのように行えば、生徒にとって負担なく、そして、継続して自宅学習ができるのかを考え、自宅学習用の時間割を作成し、それに沿ったオンライン授業という形態で行った。本校のオンライン授業の動画の本数は約900本となった。

エンカレッジスクールならではの丁寧かつ繰り返しの指導を組織的・計画的に行うことで、生徒の規範意識を高めていく。あわせて、生徒の安全の確保も、重要な課題である。工業科エンカレッジスクールである本校は、都民からの期待は依然高く、その期待に応えるべく次年度以降も取組んでいく。